

企画事業

「実践力を高めるボランティア研修」

～ 青少年教育施設でのボランティアのプロになろう！～

事業の概要

事業のねらい 青少年教育施設のボランティアとして活動して行く中で必要となる指導力及び企画力の向上を図り，青少年教育施設ボランティアとしての実践力を高める。

期 日 平成22年6月12日(土)～6月13日(日)

会 場 国立那須甲子青少年自然の家

対 象 者 法人登録ボランティア及びボランティア研修受講者
公立青少年教育施設ボランティア

参加者数 ボランティア15名 (15名)
(参加募集人員) (一般11名，大学生2名，専門学生1名，高校生1名)

日程

6/12 (土)	受付	9:45～ 開講式	10:00～ 講義 ボランティアとしての ホスピタリティについて	11:00～ 演習 人間関係づくり レクリエーション	昼食	13:00～ 演習 アイスブレイクの ポイントになる	14:45～ 演習 野外活動における レクリエーション 指導について	つどい	入浴	19:30 ボランティア 交流会
6/13 (日)	つどい	朝食	9:00～11:00 演習 プログラムを企画 してみよう	11:00～ ふり返り	11:30～ 閉講式					

プログラム紹介



講義「ボランティアとしてのホスピタリティについて」
当所所長からボランティアとしての心構えや接し方についての講義があった。



演習「人間関係づくりトレーニング」
「わたしたちのお店やさん」というエクササイズを通して、他者とのかかわり方や理解の仕方について学んだ。



演習「アイスブレイクのプロになろう」
日本レクリエーション協会の講師からアイスブレイクの実際について学んだ。



演習「野外活動におけるレクリエーション指導について」
野外でのニュースポーツ「クップ」について学んだ。体力に関係なく、誰でも気軽に楽しく遊べるということがわかった。



演習「プログラムを企画してみよう」
利用団体を想定し、グループで5分間のアクティビティを企画し、実際に体験しあうことで相互に評価し、より内容を深めることができた。

演習「プログラム
みよう（安全管理
講師から、アウト
管理について学ん

企画・運営のポイント

当施設でのボランティアとしてのスキルを高めるため、講義中心の内容に偏らないように演習を数多く取り入れた。

日本レクリエーション協会からレクリエーション指導の第一人者である講師を招聘したことで、理論と実践、安全管理にいたるまでより具体的に実践力が身につく内容とした。

2日目は1日目の研修を受けて、実際に企画立案し、グループ同士で体験しあう演習を取り入れたことで、学んだことをすぐ実践に生かすことができる内容とした。

事業を終えて (成果と課題)

アイスブレイク、野外レクリエーション指導についての研修では、理論や技術について具体的に学ぶことができた。ボランティアが実際に利用団体に対して指導をする上での技術の数を増やすことができた。

プログラム内容が盛りだくさんであり、もっとゆとりのある時間配分ができるとよかった。

プログラム事例

「アイスブレイクのプロになろう」

プログラムのねらい アイスブレイクの理論と技術について学ぶことで、ボランティアとして実際に利用団体に指導する際のスキルアップを図る。

展開例

講師からアイスブレイクの理論について学ぶ。



財団法人 日本レクリエーション協会
生涯スポーツ推進部サービスセンター
部長 河原塚達樹 氏を講師に招き、ア
イスブレイクの理論について講義をし
ていただいた後、実際に参加者全員でア
イスブレイクを体験した。

アイスブレイクの実践



肩もみ、肩たたき

縦一列をつくり、前の人の肩に両手をのせる。肩をもんであげる。叩いてあげる。



顔と顔

顔と顔で向かい合う。背中と背中で向かい合う。チェンジで他の人とその状態になる。



青にとまれ

- ・最初、リーダーが「青にとまれ」とコール。
- ・全員が自分が身につけているもの以外で、人が身につけている青にとまる。
- ・だれかが、次にとまるものをコール。そのコールがない限り、ずっと青にとまったまま。
- ・こうして、どんどん、いろいろなものにとまる。
- ・最後に、誰かが青にとまれと言ったら、青にとまって終了。

那須甲子は楽しい

- ・一重円になって座る。
- ・両隣の人の姓名を互いに聞いてしっかりと覚えておく。
- ・リーダー役は円の中央に座る。
- ・リーダー役はある方を指さし、「右、那須甲子は楽しい」と言う。
- ・指された人はリーダー役が終わる前に自分の右側の人の姓名を言う。
- ・うまく言えたらリーダー役が次の人を指名、同様に行く。
- ・間違ったら、指名された人が中央に座り、同様に行く。

プログラム効果

アイスブレイクについての研修では、理論や技術について具体的に学ぶことができた。ボランティアが実際に利用団体に対して指導をする上での技術の数を増やすことができた。

団体の種別、年齢別に具体的にどのようなアイスブレイクのアクティビティが使えるのか参加者が実践することで身をもって体験し感じることができた。